

第4回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和3年3月3日（水）15：00～15：40
- 場所：JR東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学 名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長） ・古関 潤一氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授）
オブザーバー	・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・鉄道博物館 学芸部 ・東京都 建設局 道路建設部 道路橋梁課 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部 ・東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部
事務局 東日本旅客鉄道 （株）	・東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部 ・東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部 他
サポート	・パシフィックコンサルタンツ(株)

■ 当日配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料1：第3回委員会（1/25）の議事録確認
- ・ 資料2：現地調査の進捗報告について

2 議事要旨

(1) 開会

- 1/25 に開催された委員会・懇談会の段階では、次回委員会において事業者の考え、委員の見解を説明し、議論する予定であった。しかし、その後、流動的な状況となり、当初予定していた案件については、基本的に保留という扱いになっている。今後、状況の変化の中で検討していく、という形にする。(谷川委員長)

(2) 第3回委員会(1/25)の議事録確認

- 開催記録について、修正の箇所がある場合は本会議の終了までに指摘いただき、ない場合は確定とする。(谷川委員長)
⇒配布した開催記録で確定

(3) 現地調査の進捗報告について

- 資料2について、環状4号線に関する記載の調整・修正をお願いしたい。(東京都建設局)
⇒承知した。(港区)
- 様々なデータが収集され、様々なことが分かってきており、大変重要な知見が今後也得られていくと思う。(谷川委員長)
- 4街区の石垣が非常によく残っていると思った。(老川委員)
- 通常、橋台の裏側は沈下しやすい場所であるため、丁寧な造りとするが、石が詰め込まれたようになっており、丁寧な造りに見えない。段差がついて、下段に行くにしたがって厚くなっていくような構造となっているのではないかと思うが、もう少し調査が必要である。(小野田委員)
- 土丹と思われる裏込め石の地表に出ている部分の風化、地下水位を下げた状態が長時間続くことによる群杭や胴木の腐食の進行等、悪影響が懸念される。(古関委員)
- 1街区海側の砂利の下の部分がよく分からない状況であるが、それ以外の築堤本体については概ね明らかになってきた。これを受け、1・4街区について、調査の所見を踏まえながら、文化財的な価値の検討を行っていく。
⇒2・3街区に関して検討の際は、調整の出発点という形で保存の方針をいただいたが、2・3街区を含めた1～4街区について、検出調査の段階を見て、委員としての意見をとりまとめていただきたい。スケジュールにも影響が出てきており、出発点という形であると調整に時間を要するため、進め方については配慮いただきたい。(JR)
⇒委員会や専門家としての見解は、文化財的・専門的な見地からあるべき姿やふさわしい姿を示すのが最初である。様々な状況は理解しているが、ある種のまとまりとしての文化財的な価値の検討が必要になってくる。説明責任を果たせる形のものを作成していく。(谷川委員長)
- 報告書について、事実記載の部分は、できるだけ早い段階で仕上げていきたい。報告書の組み立てについて検討し、委員会で諮り、事業者の理解を得るというプロセスで進め

ることについて、了解いただきたい。(谷川委員長)

- 前回委員会で中間報告いただいた資料調査に関して、今後どのような方向性で進めていくのかについては早急に詰めていく必要がある。発掘調査をして、整理を行い、知見をまとめながら、次の現場に活かしていくという手順の中で、資料調査の成果も利用できる形にしていくべきである。これについても提案できればよいと思う。(谷川委員長)

(4) その他

- 港区宛ての要望書等としては、鉄道史学会等の学会から高輪築堤遺構の保存・公開に関する要望書、日本歴史学協会他 20 学会の連名で高輪築堤の保存を求める要望書、日本考古学協会から会長声明が届いている。(港区)
- JR 宛てとしては、要望書という形を問わず、様々な要望をいただいている。要望書という形であれば約 20~30 程度で、日本考古学協会から「開発計画を見直し、全面的に保存していただきたい」という要望、「まちづくりとの関連を理解したうえで、なるべくよい形で残せるよう、保存に取り組んでいただきたい」という要望が約 5~8 件届いている。一方、「早く開発を進めてほしい」、「コロナ禍で経営が厳しい中では、事業を進めることが JR の責務ではないか。当初のスケジュール通り、12/2 に公表した方針に則り、事業を進めてほしい」という意見の方が件数としては多く、10 数件ある。
- 3/21 に港区民向けの見学会が予定されている。港区民を対象に広報「みなと」で募集し、約 280 件の応募の中から、90 名の参加者を決定した(1 枚あたり 2 人まで参加可能であるため、枚数的には 50 枚程度)。(港区)

(5) 閉会

- 次回は、1・4 街区に関する考え方がある程度まとまった段階での開催予定とする。(谷川委員長)

3 議事録

3.1 開会

- (事務局) 第4回 高輪築堤調査・保存検討委員会を開催する。
- ・ 出欠について
 - ・ 配布資料の確認
 - ・ 次第の説明
- (谷川委員長) 前回委員会以降の状況を説明する。1/25 に開催された委員会・懇談会の段階では、次回委員会において事業者の考え、委員の見解を説明し、議論する予定であった。しかし、その後、非常に流動的な状況となった。当初予定していた案件については、基本的に保留という扱いになっている。今後、状況の変化の中で検討していく、という形にするのがよいと考える。この点、了解いただきたい。

3.2 第3回委員会 (1/25) の議事録確認

- (谷川委員長) 前回委員会の議事録については、事前配布の内容を私の方で確認し、修正したものを配布という形になっている。発言者には、自分の本意でない記載になっていないか、確認いただきたい。前回と同様、指摘がある場合は会議終了までにいただき、なければ確定とすることでよいか。会議終了までに見終わらなかったため、もう少し待ってほしい等があれば、その旨、意見いただきたい。
- (全員) よい。

3.3 現地調査の進捗報告について

※港区より説明：資料2（現地調査の進捗報告について）

- (谷川委員長) 本委員会前に2時間ほどかけて、委員で1～6街区までの現地視察を行った。私が感じたことをコメントする。1街区は、天端石が残っている箇所もあり、山側の石垣の残りが非常によいという印象を持った。海側は、工事の都合等により、未だ砂利層をはがす段階に至っていない。一部、トレンチを入れたところからは群杭が発掘されているが、群杭を全て検出するところまでは至っていない。石積みや築堤の上面の部分に関しては概ね把握できているが、海側の海の部分において、地盤を固めていた部分（土丹を敷き詰めたり、杭をベタ打ちにしたりしていた部分）の様相が、まだ分からない状況である。2街区で重要

と感じたことは、山側の開業時の石積みが2段、非常に明確な形で残っていることである。第2東西連絡道路で確認されたものと、残り方がよく似ており、山側の開業時の石垣2段がある程度残っていると考えてよいと思った。3街区は、資料2-①に記載の通り、第7橋梁が3線化した段階での山側の石積みの状況がよく分かる。特に、橋梁部の最上段は、すだれをかけて非常にきれいに造っているが、2段目以下が雑になっている。2段目以下は、土羽で石が見えない状況だったのかもしれないが、その証拠は写真等で確認しないと分からない。もしデータが残っていれば、教えていただきたい。4街区は、検出調査がほぼ終了して、大変きれいに見えていた。信号機ではないかと推定している基壇の部分から北側は直線的に造られている一方、そこまではカーブしている景観がよく見えたのが非常に印象的であった。既に埋めてしまったため現場を見ることはできなかったが、山側の開業時の石垣がトレンチで確認されている。そのため、開業時の山側の石垣が繋がってくる可能性があると思った。5街区は、環状4号線の橋脚の部分を確認して、かなり攪乱が酷いことが分かった。ただし、そのトレンチの東側に、海側の石垣の天端が露出しており、5街区は海側の石垣が非常によく残っているのではないかと推測する。部分的かもしれないため、もう少し確認が必要である。6街区は、物流仮斜路の部分に関しては石垣の積み方があまりきれいではない。布積みの目地が水平にならない積み方をしている。また、裏込めが第2東西連絡道路と比較して非常に貧弱であり、雑な印象を受けた。一方、地下物流荷捌き場の石垣は、遠くから見ると面が大きく非常に立派な石垣で、1～4・6街区の物流仮斜路と比較して、石積みの様相が全く異なることが非常に印象的であった。様々なデータが収集され、様々なことが分かってきており、大変重要な知見が今後也得られていくと思う。委員より一言ずつコメントをいただきたい。

(老川委員) 4街区の石垣が非常によく残っていると思った。遊歩道にする等ができるかよいのではないかと感じた。

(小野田委員) 橋台の裏側の構造について、通常、橋台の裏側は沈下しやすい場所であるため、丁寧な造りとするが、石が詰め込まれたようになっており、丁寧な造りに見えない。理由が分からない。橋台の表側は丁寧な造りになっているが、裏側は段差がついて、下段に行くにしたがって厚くなっていくような構造となっているのではないと思うが、もう少し調査が必要である。また、路盤の跡が明らかに追えるほどきれいになっており、素晴らしいと思った。

(古関委員) 地盤工学的な観点から言うと、土丹と思われる裏込め石の地表に出ている部分の風化が進行していることが気になった。同様に、群杭や胴木について、地下水位を下げた状態が長時間続くと、腐食が進行する等、悪影響が出るかもしれないと感じた。

- (谷川委員長) 港区から何かあるか。
- (港区) 特になし。
- (谷川委員長) 橋台の裏側については、まだよく分からないが、小野田委員のおっしゃる通りである。現状、5・6街区は様相が全く分からない状況、1街区は海側の砂利の下の部分がよく分からない状況であるが、それ以外の築堤本体については概ね明らかになってきた。2・3街区に関しては、検討を見直す部分があるかもしれないが、既にある程度検討してきた。1・4街区についても様相が解ってきたため、委員会としての検討を行っていききたい。中央部の机上の写真は、4街区のものか。
- (JR) 1・4街区を並べている。
- (谷川委員長) のちほど確認する。調査の所見を踏まえながら、文化財的な価値の検討を行っていく、という次の段階にきた。したがって、1・4街区の検討を行っていくことを了解いただきたい。また、その考えがある程度まとまった段階で、委員会で我々の考え方を示すことができるとよいと考える。先ほど現地にて大成エンジニアリングより、試掘の報告が出たと聞いた。
- (港区) どこの結果か。
- (谷川委員長) トレンチを入れた箇所の結果は出ているか。
- (港区) 最初にトレンチを入れた箇所の結果は出ている。
- (谷川委員長) 第2東西連絡道路の結果はまだか。
- (港区) まだ出ていない。
- (谷川委員長) 第2東西連絡道路については、凶面等がいずれ出るのか。
- (港区) 出る。
- (谷川委員長) 遺物はまだか。
- (港区) 遺物は、整理をしているところである。
- (谷川委員長) 報告書の作り方に影響してくる。おそらく、調査から報告書を出すまでに数年を要する。その間に忘れてしまわないよう、事実記載の部分は、できるだけ早い段階で仕上げていただきたい。当然、ある程度並行して分析を行う必要があり、その辺りを考えていきたい。棚上げ状態になってしまうと、報告書の作成が大変になってしまう。第2東西連絡道路に関しては完結した形で、報告書の中の1章等として作成する必要がある。報告書の組み立てについても我々で検討し、委員会で諮り、事業者の理解を得るというプロセスを進めることについて、了解いただきたい。また、調査が進捗していきながら、全体の分析もある程度必要になる。本調査の時点で、例えば、第2東西連絡道路のデータを参考にしながら本調査を行うといったことが当然必要になると同時に、前回委員会で中間報告いただいた資料調査に関して、この場で進捗を確認することはしないが、今後どのような方向性で進めていくのかについては早急に詰めていく必要がある。どのように報

告書に反映していくか、どのように発掘調査に活用していくかを考えることが必要である。委員会には専門家の指導が必要であるという話をしたが、同時に、報告書の見通しを立てながら発掘調査を行っていくべきであり、発掘調査をして、整理を行い、知見をまとめながら、次の現場に活かしていくという手順の中で、資料調査の成果も利用できる形にしていくべきである。これについても、我々から提案できればよいと思う。質問・意見はあるか。

(JR)

1～4街区について、概ね状態が把握できたため、再度確認して評価という話があった。スケジュールに影響が出てきている。先ほど古関委員からあったお話（石材の風化や杭等の腐食が進む懸念）に対しても後付け的な理由ではあるが、スケジュールも大切である。2・3街区に関して検討の際は、調整の出発点という形で保存の方針をいただいたが、2・3街区を含めた1～4街区について、検出調査の段階を見て、委員としての意見をとりまとめていただきたい。その間、調整が必要であれば、随時対応する。冒頭に話があった通り、全体が流動的になっている部分もある中で、出発点という形であると調整に時間を要してしまう。調査の必要性は理解しており対応して行くが、進め方については配慮いただきたい。

(谷川委員長)

2・3街区に関しては、80m 現地保存案を出発点として提示した。それに1・4街区を加えた形を提示することになるが、さしあたって、委員会や専門家としての見解は、文化財的・専門的な見地からあるべき姿やふさわしい姿を示すのが最初である。そのためには、1・4街区の遺構の検討を行いながら、なぜそうなるのかという根拠を示す必要がある。我々の役割として、その出発点となるような案を提示すべきと思う。2・3街区の検討において80m という原案を出したが、同様に、1・4街区についても検討し、案を作成する。様々な状況は理解しているが、ある種のまとまりとしての文化財的な価値の検討が必要になってくる。「国史跡」に指定できるかは分からないが、ある種のボリュームが必要であることは確かである。懇談会でもお話しできればと思うが、そのようなことを考えていることは了解いただきたい。まずは、1・4街区についても、以前提示したような内容を我々として考えていきたい。

(JR)

必要なステップであると思うが、全体のスケジュールもあるため、配慮いただきたい。

(谷川委員長)

いたずらに時間を費やすつもりはない。説明責任を果たせる形のものを作成していく。

3.4 その他

- (谷川委員長) 2/16 に文部科学大臣が視察されるという大きな出来事があった。また、私もあまり把握できていないが、要望書がいくつか届いているという。委員会宛てではないが、高輪築堤の保存・調査に関する状況の記録が今後 10 年後、20 年後に残るよう、高輪築堤に関する記録はできる限りまとめておくようにしたい。港区が把握しているもの要望書はどのようなものか。
- (港区) 港区宛ての要望書としては、2/26 に鉄道史学会等の学会から「高輪築堤遺構の保存・公開の要望について」が出された。3/1 に日本歴史学協会他 20 学会の連名で、高輪築堤の保存を求める要望書が届いている。3/2 には、日本考古学協会から会長声明が届いた。
- (谷川委員長) JR が把握しているものはいかがか。
- (JR) 委員会では、独立した、学術的な見地でとりまとめていただくことになるため、JR に届いている要望書との関連は薄いと思う。
- (谷川委員長) 記録として残しておきたい。
- (JR) 公的な機関以外からも様々な要望をいただいております、その取り扱いについては調整をお願いしたい。前回報告したものを含め、概ね 20～30 程度の要望をいただいている。要望書という形以外にも、お客様や地域の方々などとの接触のツールを様々な持ちしており、インターネットで意見をいただくことや、直接意見をいただくこともある。要望書のみを承るわけではないが、要望書という形であれば、約 20～30 程度である。そのうち1つとして、日付は定かではないが、日本考古学協会から「開発計画を見直し、全面的に保存していただきたい」という内容の要望をいただいている。また、それぞれ温度感はあるが、「まちづくりとの関連を理解したうえで、なるべくよい形で残せるよう、保存に取り組んでいただきたい」という要望が約 5～8 件程度ある。一方、「早く開発を進めてほしい」、「コロナ禍で経営が厳しい中では、事業を進めることがJRの責務ではないか。当初のスケジュール通り、12/2 に公表した方針に則り、事業を進めてほしい」という意見の方が件数としては多く、10 数件届いている。要望書という形を問わず、様々な要望をいただいております、会社としては1つ1つの声が重要であるため、受け止めていきたいと考えている。しかし、全てに答えられるわけではないため、委員会、港区等から指導いただきながら、事業者として誠実に対応していきたい。
- (谷川委員長) 報告いただいたことが大事である。我々は、要望書を受領している側ではないが、全体的な状況を知ることも必要である。ただし、それによって意見が左右されることは基本的にない。大臣視察については、懇談会でお話しいただく。その他、東京都からコメントはあるか。
- (東京都教育庁) 今の内容に集約されているため、特段ない。

- (谷川委員長) 港区はいかがか。
- (港区) 特になし。
- (谷川委員長) 事業者はあるか。
- (東京都建設局) 資料2-①について、東京都から環状4号線に関する詳細な情報(長手方向に35m、幅10数mを掘る等)が渡っていないのか。
- (港区) 届いている。図面もいただいている。
- (東京都建設局) 例えば、資料2-②について、環状4号線の位置がずれている。この資料が残っていくことになると思うため、調整したい。
- (港区) 修正する。
- (東京都建設局) 5・6街区の間にあたるため、修正いただきたい。
- (港区) 勘違いしていた。
- (谷川委員長) 後ほど調整をお願いします。他に何かあるか。
- (JR) 3/21に港区民向けの見学会が予定されている。現場を預かる者として、安全確保に向けて協力させていただく。具体的な方法に関する調整は、今後お願いします。
- (谷川委員長) 記録としては大事な点である。港区から何かあるか。
- (港区) 3/21の見学会について、港区民を対象に広報「みなと」で募集した。約280件の応募があり、90名の参加者を決定した。1枚あたり2人まで参加可能であるため、枚数的には50枚程度となっている。本日の朝も、JR職員と見学会当日の打合せを行った。滞りなく進めたい。

3.5 閉会

- (谷川委員長) 次回は、1・4街区の我々の考え方がある程度まとまった段階で、開催できればと思う。早めにとということであるが、最低でも1か月程度は時間をいただきたい。
- (JR) 極力、スケジュールを見ながら進めていただきたい。
- (谷川委員長) 第4回高輪築堤調査・保存等検討委員会を閉会する。

以上